

The Human 識者に聞く

フリーアナウンサーとして、さまざまなメディア、機会を通じて発信をしている有江活子さん。

現在、歯・医学教育やキャダバー・トレーニング実施において欠かせない献体について、献体登録されたご本人や、ご家族・ご遺族、大学の解剖学教室の教授や臨床医など、多様な立場の方々に取材をされています。それらの活動を通じて見てきたのが、社会や環境の変化に伴う、献体者、ご家族、ご遺族の抱える思いや苦悩等々。今回はマスメディアの立場から、正しい情報を伝えることの重要性、正しい知識を得て行動することの大切さについて語っていただきました。

国内でのキャダバー・トレーニング実現のためには、 まず献体への正しい理解と登録者の協力が必要です。

フリーアナウンサー

有江 活子

1962年 北海道生まれ／1986年北海道教育大学札幌校卒業／中学校教諭を経て、1988年からフリーアナウンサー。「東京マーケット情報」「首都圏ネットワーク」「ラジオほっとタイム」「私も一言!夕方ニュース」などNHKのTV・ラジオへの出演の他、ナレーション、シンポジウムの司会などを務める。



献体を用いた医師や医療技術者の技術トレーニング、キャダバー・トレーニングに、理解を深めてもらおうと開かれた市民フォーラムの司会を何度か担当させていただきました。立ち見の参加者で溢れた札幌の会場をはじめ、どの会場も「医療の安心・安全を確保するためにトレーニングを進めて欲しい」という声に包まれました。と同時に「献体についてもっと知りたい」という熱気にも圧倒されました。トレーニングの実施には献体者の理解と協力が欠かせません。実は近年、献体希望者が増えています。登録者総数は25万人をこえ、篤志解剖全国連合会によりますと、全国の医・歯学系の大学の7割で登録の際に何らかの制限を設けたり新規の受付を止めたりしているほどです。なぜ増えているのか?活動を支えているのはどんな方々なのか?登録者やご遺族、解剖学教室や臨床医など、様々な立場の方々に会いして取材を進めています。

女学校時代に出会った医学生から解剖実習の必要性を聞かされた女性は、その後何度となく大病を患い、命を救ってくれた医療に恩返しをしたいと思うようになりました。夫がシベリア抑留体験者で「何かお役に立つ事したい」と常々話していたご夫妻。家族の献体を体験し、遺骨が戻ってくるまでの2年間を切々と語ってくださった方もいま

す。育った環境やご両親の教育、戦争体験、仕事を通して得た価値観や家族との絆などを2~3時間かけてじっくりと伺っていくと、一人ひとりの大切な出来事が積み重なって「人生最期に何かお役に立ちたい」という気持ちが生まれ、医学教育や医療を支える大事な役割を担っていることがわかります。

では、なぜ増えているのでしょうか?お話を伺った何人かの教授は、認知度の高まりや「献体運動」の定着を挙げた一方で、「葬式や墓の心配をしなくて済む」「家族に迷惑をかけたくない」という理由で希望する方が、あくまでも一部ですが、最近増えてきたことに言及されました。献体は無条件・無報酬でご自分の遺体を提供し、遺骨もご遺族が引き取ることが条件となっていますが、引き取り手がなく大学の慰霊塔などに収められるケースも少なくありません。ある解剖学の教授は「お役に立ちたいという気持ちがある以上、それぞれの背景に線引きするのは難しいが、医の倫理教育の観点からも今後考えなくてはならない」と指摘します。一人暮らしが増え経済的・家族的な要因に起因するならば、死生観の変化に加えて社会福祉の問題も考えられます。さらに「お金がかからないから献体するんじゃない?」と世間から誤解に満ちた心無い言葉をかけられて大きく落胆する登録者の話を聞かされたとき、新聞や映画でも紹介され世の中全体が「献体」への認識を深めているようでいて、その実正しく理解する場面が少ないのではと感じました。

キャダバー・トレーニングについても、なぜ必要なのか詳しい説明を聞いたことのある方からはおおむね「ぜひ協力したい」という声がかかりますが、「刷物一枚ではわからない。直接説明を聞く機会が欲しい」という方もいました。今後できるだけ多くの方への取材を進めながら、正しい情報をお伝えするためのお手伝いができたらと思います。

医療を育てる活動の輪に、あなたもご参加ください。

日本の医療技術の習得や開発は、私たちの、未来の日本のためのものです。外国の施設や善意にいつまでも頼るのではなく、医療の質と安全については、日本国民自らが負うべきではないでしょうか。メリジャパンの趣旨にご賛同いただける方は、寄付、または会員登録、署名など募集していますので、ぜひご協力ください。お問い合わせをお待ちしています。

◆ 会員の種別

会員の種別	特徴	年会費
正会員	総会議決権を持つ会員です。 運営にも積極的に関わっていただきます。	個人会員 ¥5,000
		法人会員 ¥10,000
賛助会員	総会の議決権はありません。 活動を支援してくださる方が対象です。	個人会員 ¥3,000
		法人会員 ¥5,000

※正会員・賛助会員ともに入会金は不要です。

医療を育てるワンコイン募金

医療事故や医療過誤をなくし、高度な医療技術の普及をめざすメリジャパンの活動を推進していくための募金を行っています。みなさんが、そしてご家族がより安全に高度な医療を安心して受けられるよう、日本の医療の質と安全性の向上をめざす活動を、みなさんの手で実らせてください。

募金方法

1 電話、FAXまたはE-mailで、

1. お名前 2. ご住所 3. 電話番号をお知らせください。
募金いただいた方には、活動報告を送付いたします。

- ・電話:052-751-8197
- ・FAX:052-751-8169
- ・E-mail:meri_info@hachiya.or.jp

※いただきました個人情報は領収書、活動報告などの送付に使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

※振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

※法人での募金をご希望の方は事務局までご相談ください。

2 1口500円(個人の方のみ。口数制限はありません)を下記いずれかの口座にお振込ください。

- ・名古屋銀行 覚王山支店 普通3312469
口座名:トクヒ)メリジャパン
- ・三菱東京UFJ銀行 覚王山支店 普通0015826
口座名:トクヒ)メリジャパン
- ・ゆうちょ銀行 12140 89381881
(他行からお振込の場合は、
ゆうちょ銀行 218支店 普通8938188)
口座名:トクヒ)メリジャパン

7月31日までにみなさまより143,300円のご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。

編集 後記

今回フリーアナウンサーで、医療に関する取材活動をされている有江活子さんにお話を伺いました。お話の中で有江さんは、献体を使った医師の手術手技研修(キャダバー・トレーニング)を進めて欲しいという声が大きくなっている、献体の認知度が高まっている、献体を正しく理解してもらい、キャダバー・トレーニングの必要性などの情報を伝えるお手伝いをしていくという思いを語られていました。東日本大震災後の活動再開として9月7日(土)に市民フォーラムを開催することになりました。ぜひご参加いただき安全・安心な医療について考えていただけましたら幸いに存じます。

厚生労働省は、献体を使った手術手技研修の実施団体(医学部又は歯学部を有する大学)を公募しており、日本外科学会と日本解剖学会が連名でガイドラインを公表しています。法整備は遅れておりますが、少しずつではありますが動きが出ています。今後ともみなさまのご理解・ご支援をいただきながら、活動を続けてまいります。(O)



MERI Japan

● お問い合わせ先

特定非営利活動法人メリジャパン

〒464-0821名古屋市中千種区末盛通2-4 はちや整形外科病院内

電話 052-751-8197 E-mail meri_info@hachiya.or.jp

URL <http://www.merijapan.org>